

研究主題 ふるさとに学び 心豊かに生きる子どもの育成
～地域の伝統・文化を取り入れた授業づくりを通して～
H22・23年度国立教育政策研究所「伝統文化教育実践研究」指定

I 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

(1) 研究の内容

- ア 地域の伝統・文化を取り入れた学習に関する理論研究，臨地研修と資料収集
- イ 伝統・文化を取り入れた学習に関する年間指導計画の作成，実践と検証
- ウ 研究仮説検証のための，児童意識調査の実施（2ヶ年で4回）
- エ 伝統・文化を尊重する学校教育環境の整備
- オ 落ち着いた学習習慣の定着に向けた，全校的な取り組みの推進

(2) 研究の方法

- ア 全体会，生活科・総合の2部会により，地域素材や伝統・文化を取り入れる指導の工夫についての研究を行う。
- イ 地域の伝統・文化に関する題材を洗い出し，教材の開発と教育課程への位置づけを行う。
- ウ 研究授業（生活科・総合）を通して，指導の工夫・改善を検証する。
- エ 学校教育全体を通して，地域の伝統・文化を尊重する教育活動推進への環境づくりを進める。
- オ 学習に対して真面目に取り組む意欲や態度を確実に身に付けさせるために，学習規律の徹底や学級集団づくり，家庭学習への取り組み等における指導の工夫を，全校体制で組織的に進める。

2 研究実践

(1) 理論研究

- ア 伝統・文化を尊重する教育に関する学習会（6月）
指導 県義務教育課 指導主事 薬袋 貴 先生
- イ 室伏地区と柚口地区のうちはやし保存会による概要説明と実演
（10月 P T A親子伝統芸能鑑賞会）

(2) 研究授業

- ア 第2学年生活科「みんなあつまれ，やっほいほい」授業者 丸山英子 教諭
指導 県義務教育課 指導主事 薬袋 貴 先生
- イ 第5学年総合「見つめよう私たちの牧丘」授業者 岩下 城 教諭
指導 県義務教育課 指導主事 薬袋 貴 先生

(3) 伝統・文化を尊重する心を培うための環境づくり

- ア 「わらべうた」などの伝統音楽を取り入れた音楽集会
- イ 郷土料理等の取り入れや、保護者への啓発活動等、食教育との有機的な連携
- ウ 地域の伝統文化を紹介した写真資料を「伝統・文化紹介コーナー」として設置
- エ 地域伝統のお囃子（うちはやし）を題材にした「PTA親子伝統芸能鑑賞会」の開催や、「親子箸作り体験教室」「茶の湯体験」「親子短歌教室」等、多面的な伝統・文化を取り入れた教育活動の実施

II 研究の成果

1 成果

- (1) 理論研究、地域素材の洗い出し、臨地研修等によって、資料の収集と教材開発を行い、「伝統・文化に関する学習の年間指導計画」を作成した。これをもとに、全学年において伝統・文化を取り入れた授業実践を行うことができた。
- (2) 地域ゲストティーチャーの効果的な活用や、「直接体験」を重視した単元構成によって、学習にリアリティを持たせることができたと同時に、地域との連携の深化を図ることができた。
- (3) 児童意識調査（7月と2月）から、①「牧丘の伝統・文化に関する知識〈全校〉」68%→91% ②「牧一小地区への愛着や好感〈全校〉」76%→83%など、地域や伝統・文化に対する児童の関心や知識が大いに高まった。学校教育全体を通して、地域の伝統・文化を尊重する教育活動推進への環境づくりを進めることができた。
- (4) 伝統・文化を尊重しようとする価値観を持って生活することによって、児童の生活行動は安定し、落ち着いて学習に取り組もうとする意志形成に効果があった。

2 課題

- (1) 「豊かな心」と「確かな学力」を、学校教育全体を通してバランスよく育成するための指導のあり方について、さらに多角的な視点を持ちながら教育活動を見つめ直すことによって、学習内容や手立ての探究を進めていくことが必要である。
- (2) 伝統・文化に関する教育の年間指導計画の見直しを行い、付加修正しながら整合性を高め具体化を図る。
- (3) 各学年の学習内容を各教科の特性や児童の実態に合わせて整理し、授業実践を行うことによって検証を進める。
- (4) 地域人材リストを整備するとともに、保護者や地域への啓発活動によって地域との連携を図る。

III 成果物

- 1 伝統・文化に関する学習の年間指導計画（1～6年）
- 2 学習習慣の定着に向けた指導資料「学習の決まり」「家庭学習をがんばろう！」
- 3 言語力向上のための指導資料「まきいちのタネ」
- 4 「牧一小地区の主な年中行事や祭りごよみ」一覧 （研究主任 新海直仁）